

書評

[評者]

井村 洋

飯塚病院総合診療科部長



みんなはどう診るこの症状

横林賢一 編著

●B5判 頁163 2013年
定価 3,360 円(本体 3,200 円+税 5%)
[ISBN978-4-525-20231-6] 南山堂刊

本書を手にとって最初に抱いた感想は、「こんな企画があったのか？」でした。その形式は次のとおりです。①「右季肋部痛」「めまい」「発熱」などの19の主訴と、それぞれに付随する事例が、数行で提示される。②診断をつけるために、サブスペシャル内科、耳鼻科、整形外科、産婦人科、皮膚科が、「考える疾患」「行いたい問診・身体診察・検査」を明示する。③結果が伝えられ、各医師が知り得た情報をもとに、最終診断と対応を述べる。つまり、「ドクターG」的なやりとりを、各専門医に依頼しているのです。さらに、各主訴ごとに、「専門医に聞いてみよう!!」というコーナーと、「総合診療医によるイイトコドリ!」という1~2ページの要約がついています。

診断推論の参考書はたくさんありますが、この企画は、おそらく本邦初(もしかしたら地球上初かも)です。編者および各専門医のチャレンジ精神に、大きな拍手と敬意を表します。

全163ページの本書は、見所満載で一つの無駄もありません。指導医は読み流した後、各症状のまとめ(「総合診療医によるイイトコドリ!」と称されている)を常

備すれば、「ベスト指導医」が確約されます。

「専門医に聞いてみよう!!」のなかで、「考える型」「ここは気をつけて診てほしい点」「見落としそうになった事例」について、各専門医が回答しています。「考える型」では、真似すべき型を、たっぷり味わえます。「気をつけて診てほしい点」は、まさに有能な指導医が教えてくれるビットフォールの点検ポイント集です。「見落としそうになった事例」では、さまざまなバイアスに陥った経験例が、生々しく提示されています。診療にどっぷり取り組んできた、各医師からのメッセージは、読みごたえがあります。

読み進めていくうちに、次の疑問が生じてきました。「本来、このような教育企画は、研修医教育に必須なのでは？」——私も含めた、研修医教育病院指導医には、考えていただきたい課題です。

最後に、どのような主訴に対しても、本書にあるようなレベルで対応できることが、総合診療医の後期研修修了目標であることと思います。本書が、内科医、総合診療医、家庭医の自己評価ツールとして、最高の一品であることを保証します。